

薬剤師が管理栄養士と連携して、
制限の多い透析患者の嗜好に沿った食品を提案しサポートできた 1 事例

1)みよの台薬局 (株) ひまわり調剤薬局、2)みよの台薬局 (株)
海野 諒子¹⁾、水戸部 夏実¹⁾、加藤 健司²⁾

【はじめに】透析患者の多くは水分摂取量・栄養摂取・遠方への外出など日常生活に多くの制限があるため、治療に前向きになれない患者も少なくない。ひまわり調剤薬局では、日頃より透析施設と連携して患者の QOL 向上を目指した取り組みを行っている。今回、薬局内の管理栄養士と連携し患者の嗜好に沿った食品を提案することで、患者の食べる楽しみを損なわず、治療継続に貢献した事例を経験したので報告する。

【背景】透析室スタッフより「チーズが好きな患者が複数名いる。チーズはリンが多い為あまり食べてほしくないが、どうしたら良いか」という相談を受けた。これを受け、透析患者の嗜好を無理に変えること無く、成分的に安心して食する事ができ、経済的にもリーズナブルな食品がないか管理栄養士と検討し資料を作成した。

【事例】78 歳女性、透析実施患者。CKD ステージ 5D(血清 Cr 値 5.79 mg/dL、eGFR 6.0 mL/min/1.73m²、血清 P 値 6.1mg/dL)。「我慢しているが、本当はチーズが食べたい」という患者のニーズにできるだけ当てはまるものを探した結果、大塚食品のマイサイズが候補に上がった。資料を患者に見せながら話し合い、その後食品を 1 年間リピート購入し、不定期に摂取継続中。「生活や自身の考え方に大きな変化はないが安心して食べる事ができたので、食事が楽しくなった。」と患者からは前向きな意見が聞かれた。血清リン値は 3.3~7.7 mg/dL で推移し、悪化はみられなかった。スタッフからは「今回提案した食品以外の治療用特殊食品も提案して欲しい」「本人だけでなく、家族にも知ってもらいように取り組んで欲しい」などの意見があった。

【考察】今回、透析患者のニーズに合わせた食品の検索・提案を行うことで、多くの制限がある中でも患者の気持ちを前向きにするサポートができた。薬局薬剤師も多職種で連携し、制限の多い透析患者のニーズを共有し、医薬品以外でも様々な提案を行うことで、患者の QOL 向上に寄与できると実感できる事例であった。